

富田林市文化財調査報告19

# 甲田遺跡・錦織遺跡・中野北遺跡 発掘調査概要報告

2022. 9

富田林市教育委員会

## 例　言

1. 本書は、平成元(1989) 年度に甲田遺跡、錦織遺跡、中野北遺跡で実施した発掘調査の成果をまとめた報告書である。
2. 現地調査は、富田林市教育委員会社会教育課職員（当時）の中辻 亘が担当した。また、南元康、中川 正博、奥野 久雄、吉田 光夫の協力を得た。
3. 現地調査から長い年月が経過したが、令和3（2021）年度に入って報告書の編集に着手した。編集作業は、青木 昭和（富田林市教育委員会文化財課）が行い、本書刊行をもって調査が完了した。
4. 本書の執筆は、各々文末に記すものがあつた。なお、編集にあたって、執筆者の文章を尊重したが、若干の文言修正を行っている。
5. 出土遺物及び調査時の記録類は、富田林市教育委員会文化財課で保管している。広く活用されることを望む。
6. 調査にあたって、土地所有者をはじめ関係各位のご理解、ご協力を得た。また栗田 薫氏から、格別の援助を受けた。ここに記して感謝の意を表します。

## 凡　例

1. 本書に用いる遺構名称は、SD（溝）、SP（ピット）である。
2. 挿図の方位は磁北を示し、縮尺は図中に記載した。標高は東京湾平均海面（T.P.）を示している。
3. 文中の住所表記は届出があった当時のものであり、現在と異なる場合がある。

## 目 次

### 例言・凡例

第1章 平成元年度調査の概要	1
第2章 甲田遺跡 (KD89-2)	3
第3章 錦織遺跡 (NK89-1)	4
第4章 中野北遺跡 (NNN89-2)	7
第5章 まとめ	8

## 表 目 次

表1 平成元年度発掘調査一覧表	1・2
-----------------	-----

## 挿図目次

第1図 平成元年度調査遺跡位置図	2
第2図 甲田遺跡 (KD89-2) 調査地位置図	3
第3図 調査区位置図	3
第4図 遺構平面図・断面図	3
第5図 錦織遺跡 (NK89-1) 調査地位置図	4
第6図 調査区断面図	4
第7図 出土遺物 (縄文土器)	5
第8図 出土遺物 (縄文土器以外)	6
第9図 中野北遺跡 (NNN89-2) 調査地位置図	7
第10図 調査区堆積層模式図	7
第11図 錦織遺跡縄文土器出土分布図	8

## 図版目次

図版1 (上) 甲田遺跡 (KD89-2) 調査地全景	(下) 甲田遺跡 (KD89-2) 調査地近景
図版2 (上) 錦織遺跡 (NK89-1) 調査地全景	(下) 錦織遺跡 (NK89-1) 調査地近景
図版3 (上) 錦織遺跡 (NK89-1) 出土縄文土器 (表面)	(下) 錦織遺跡 (NK89-1) 出土縄文土器 (裏面)

## 第1章 平成元年度調査の概要

平成元年度は、表1および第1図に掲げた29件の発掘調査を実施した。

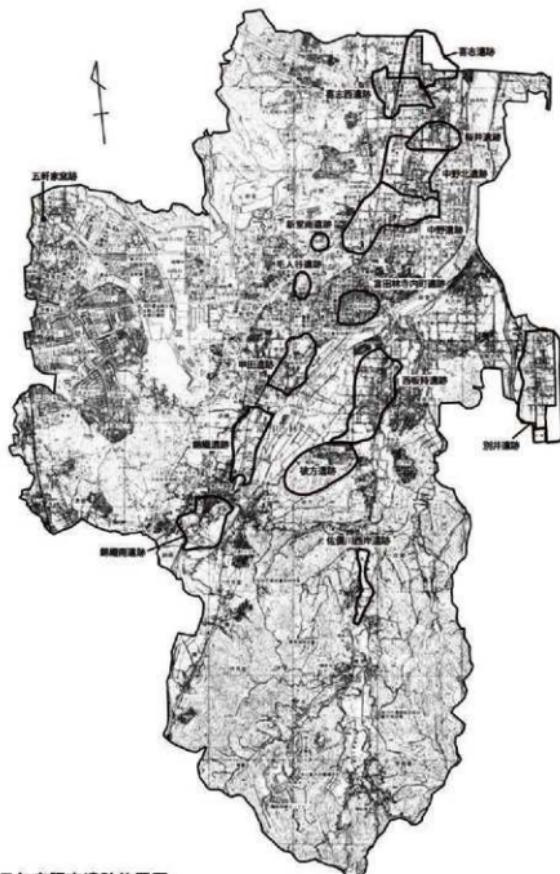
本書では、このうち甲田遺跡(25)、錦織遺跡(26)、中野北遺跡(27)の発掘調査について、その概要を記述する。(中辻)

表1 発掘調査一覧表（その1）

No	調査期間	遺跡名	所在地	調査内容
1	H元. 4. 7	新堂南遺跡	若松町西一丁目	遺構・遺物なし。
2	H元. 4.13	錦織遺跡	大字錦織	浄化槽敷設時に立会。 遺構・遺物なし。
3	H元. 4.17	富田林 寺内町遺跡	富田林町	便橋敷設時に立会。 遺構・遺物なし。
4	H元. 4.20	中野北遺跡	中野町三丁目	浄化槽は既設のものを使用。 土師質土器出土。
5	H元. 5. 6	錦織南遺跡	大字錦織	遺構・遺物なし。
6	H元. 5.11	喜志遺跡	喜志町	遺構・遺物なし。
7	H元. 5.12	喜志西遺跡	喜志町三丁目	遺構・遺物なし。
8	H元. 6. 2	波方遺跡	大字波方	山の西斜面地にトレンチを設定。表土で地山。遺構・遺物なし。
9	H元. 6.14	別井遺跡	大字別井	0.8m × 2m のトレンチを1ヶ所設定。地表面より30cm 下で地山を検出。遺構・遺物なし。
10	H元. 6.15	新堂南遺跡	昭和町二丁目	0.8m × 20m のトレンチを機械掘削。遺構・遺物なし。
11	H元. 7. 7	中野北遺跡	中野町三丁目	1m × 2m のトレンチを設定。 トレンチの東端で遺構検出。瓦、土師器出土。
12	H元. 7.14	別井遺跡	大字別井	建物基礎は耕土下まで。耕土直下で地山確認。 埋土が暗褐色土の遺構確認
13	H元. 7.17	中野北遺跡	中野町三丁目	建物基礎はほほ江地山地盤。遺構・遺物なし
14	H元. 8. 8	西板持遺跡	大字西板持	浄化槽部分（2m × 3m）を深さ約1.4m 開削。 遺構なし。土師質の土器片らしき遺物を確認。
15	H元. 8. 8	五軒家窯跡（陶邑窯跡群）	大字廿山	遺構・遺物なし。
16	H元. 10. 3	西板持遺跡	楠風台二丁目	遺構・遺物なし。
17	H元. 10.12	中野北遺跡	中野町一丁目	旧耕土直下地山。遺構・遺物なし。
18	H元. 10.21	佐備川西岸遺跡	大字佐備	水田面が4面有り。3面目の水田面で瓦器出土。
19	H元. 11.21	桜井遺跡	桜井町一丁目	地表面から60～65cm で地山面を検出。 遺構・遺物なし。
20	H元. 11.21	桜井遺跡	桜井町一丁目	地山面で埋土が濁黄褐色および灰褐色土の遺構を確認。遺物なし。
21	H元. 12. 6	五軒家窯跡（陶邑窯跡群）	大字廿山	遺構・遺物なし。
22	H元. 12.13	毛人谷遺跡	寿町二丁目	遺構・遺物なし。
23	H元. 12.13	中野遺跡	若松町西二丁目	擁壁工事立会。第3層目から瓦器片と土師器片が出土。地山面で埋土が暗褐色粘質土の遺構を検出。

表1 平成元年度発掘調査一覧表（その2）

No	調査期間	遺跡名	所在地	調査内容
24	H 2. 1.16	桜井遺跡	桜井町一丁目	建設予定建物敷地の中央部にトレンチを設置。洋化構造設時に再度立会。
25	H 2. 1.26	甲田遺跡	大字甲田	本書掲載。
26	H 2. 2.16	錦織遺跡	大字錦織	本書掲載。
27	H 2. 2.16	中野北遺跡	中野町一丁目	本書掲載。
28	H 2. 2.19	西板持遺跡	大字西板持	建物建設予定地の一部を人力で削削。現地は盛土の予定。第4層目から土師質土器が出土。
29	H 2. 3. 8	喜志西遺跡	旭ヶ丘町	遺構・遺物なし。



第1図 平成元年度調査遺跡位置図

## 第2章 甲田遺跡 (KD89-2)

甲田遺跡は石川左岸の低位から中位段丘に広がるが、現在の甲田集落に重複する北東から南西250m、北西から南東100mが中心部になる。今回の調査地はその中心部の北部寄りにあたる(第2図)。甲田遺跡は、甲田浄水場拡張に伴う水道管理設工事と進入路取り付け工事の際に、6世紀末の須恵器が出土したことから、飛鳥時代の集落跡として想定されてきた(北野1984)が、発掘調査例が少ないとから、遺跡の実態はよく分かっていない。

今回の調査は、平成2年1月26日に約1.5m×2mのトレンチを設けて実施した(第3図)。なお、この調査区の略号はKD89-2である。

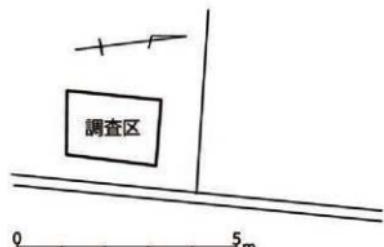
### 調査成果 (第4図・図版1)

調査区からは溝が1条(SD1)とピット5基(SP1~5)を検出したのみである。遺物は出土していない。(中註)

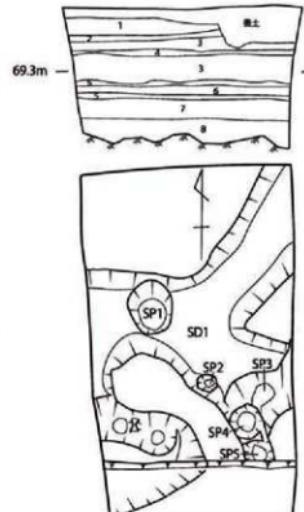
北野耕平(1984)「第六章 第一節 市内の古代集落遺跡 甲田・錦織地区」、富田林市史編集委員会(編)『富田林市史』第1巻所収、大阪(富田林)、pp483-484。



第2図 甲田遺跡 (KD89-2) 調査地位置図



第3図 調査区位置図



第4図 遺構平面図・断面図

- |         |             |
|---------|-------------|
| 1. 砂土   | 5. 黄灰色泥質質土  |
| 2. 砂土   | 6. 灰黄色泥質質土  |
| 3. 深黄色土 | 7. 深褐色泥質質土  |
| 4. 黑褐色土 | 8. 墓穴褐色泥質質土 |

### 第3章 錦織遺跡 (NK89-1)

近鉄養谷不動駅の北東側に広がる錦織遺跡は、縄文前期の遺物が出土することで1950年代から知られていたが、これまで本格的な発掘調査はあまり実施されていなかったものの、小規模な調査の積み重ねによって徐々に遺跡範囲の拡張が確認された。そのような中でも、今回の調査地は錦織遺跡の最も北東側にある。(第5図)。

現地調査は、東西約3m、南北約1.8mのトレンチを設定し、平成2年2月16日に実施した。



第5図 錦織遺跡 (NK89-1) 調査位置図

なお、この調査区の略号はNK89-1である。  
(中辻)

#### 調査成果 (第6図～第8図・図版2, 3)

調査区から遺構の検出はなかったが、第2層から第6層の堆積層 (第6図) で、コンテナ約1箱の遺物が出土している。

以下、下層より順に堆積層ごとに出土遺物を記述する。

なお、遺物の取り上げに際して、層位の略号としてLN (Layer Number) 記号が使用されており、遺物の注記には、この略号を使用している。そのため、第2層はLN2、第3層はLN3という表記になる。

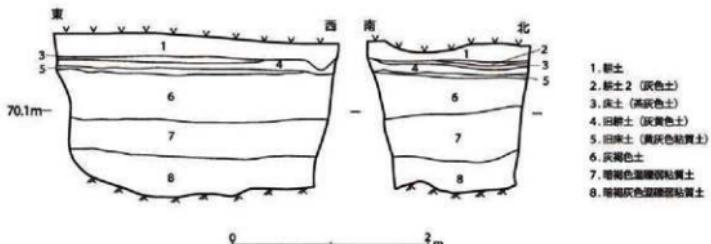
#### 第6層 (第7図、第8図)

縄文土器、須恵器、土師器、瓦器、サヌカイト剥片が出土している。

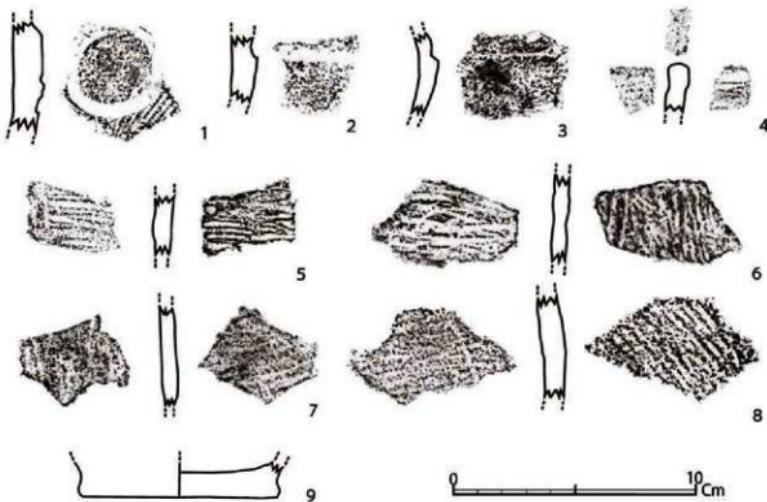
縄文土器 (第7図) はこの層からのみ出土している。

縄文土器の破片は11点出土した。いずれも細片であったが、そのうちの9

点(1～9)を図化した。すべて深鉢の破片と推測できるが、口縁部が残っていたのは(4)だけである。出土した縄文土器の中で、縄文が施されているのは(1)と(3)だけで、そのほかの破片で調整痕が観察できるものには、すべて貝殻条痕文が施されている。(1)は中津式併行期の深鉢と推測できる。残存部位が少ないと、摩滅が著しく縄文の残りも悪い。円形文の周囲を巡る沈線は幅0.5cmを測る。円形文の上面と沈線の下位に縄文が観察できる。ただし、円形文上の縄文は擦り消されていて、かすかに残されているだけである。(2)は外面に沈線が観察で



第6図 調査区断面図



第7図 出土遺物（縄文土器）

きるだけで、内外面とも調整は不明である。（3）は外面に幅の細い沈線とかすかに縄文が観察できる。内面は摩滅が著しく調整痕は観察できない。（4）は唯一口縁部が残っている破片である。外面に貝殻条痕文が観察できる。内面は摩滅のため調整は不明である。（5）は内外面とも横方向の貝殻条痕文が施されている。（6）は外面に縦あるいは斜方向に、内面は横方向の貝殻条痕文が施されている。（7）は外面に横方向の、内面に縦方向の貝殻条痕文が施されている。

（8）は外面に斜方向の、内面に横方向の貝殻条痕文が施されている。（9）は深鉢の平底の底部片で、その薄さからみて中期末から後期前葉のものと推測できる。なお、図化できなかった縄文土器の中に厚い底をもつ底部片もある。

須恵器は壺蓋（10）、甕が出土している。壺蓋（10）は天井部と口縁部の境に退化した段が認められる。甕は外面に細筋の平行タタキ調整の後にカキ目調整が施されている。内面には同心円文タタキが認められる。

土師器は6点出土しているが、いずれも細片で器種は分からず。瓦器も細片が1点ある。

サスカイト剥片は1点だけで、原面打面の剥片である。

#### 第5層（第8図）

須恵器、土師器、瓦器、瓦が出土している。

須恵器は壺身、甕（12）、甕がある。壺身は内傾気味に立ち上がる口縁部と浅い底部をもつ。甕（12）はおそらく台付きの長頸甕の体部片と推測できる。体部外面には沈線と斜線文が施されている。

土師器は壺、羽釜がある。羽釜は口縁部が内傾して、外面に段をもたないものがある。鈎部は狭い。鈎部下面から体部外面にかけて煤が付着する。

瓦器は柾がある。高台部が残存しておらず、詳細な時期を確定することができない。

瓦は平瓦（15, 16）がある。ともに凸面には縄目タタキ、凹面には布目が認められる。

#### 第4層（第8図）

須恵器、土師器、瓦器、砂岩製の叩き石が出土している。

須恵器には壺身（11）、甕（13）がある。壺身（11）は内傾気味に立ち上がる口縁部と浅い底

部をもつ。甕（13）は口頸部が外反して開き、口縁端部で玉縁状に丸くおさまる。頸部は平行タタキ調整が施されている。体部外面は残存部分が少ないため不明であるが、内面に同心円文タタキが観察できることから、頸部と同じく平行タタキ調整が施されていたと推測できる。

土師器には坏（14）、高坏、甕などがある。

瓦器には椀がある。高台部が残存しておらず、詳細な時期を確定することができない。

砂岩製叩き石（17）は、楕円柱状の叩き石でほぼ全面に敲打痕が残る。とりわけ上面部と下面部、そして図化した表裏面に敲打痕が著しく認められ、窪んでいる。

### 第3層

須恵器、土師器、瓦器が出土している。

須恵器は坏身、甕がある。坏身は底部に高台が巡るもので8世紀代のものである。甕は体部片で、外面に平行タタキ調整、カキ目調整が施されている。内面には同心円文タタキが認められる。

土師器、瓦器は細片で、器種の分かることはない。

### 第2層

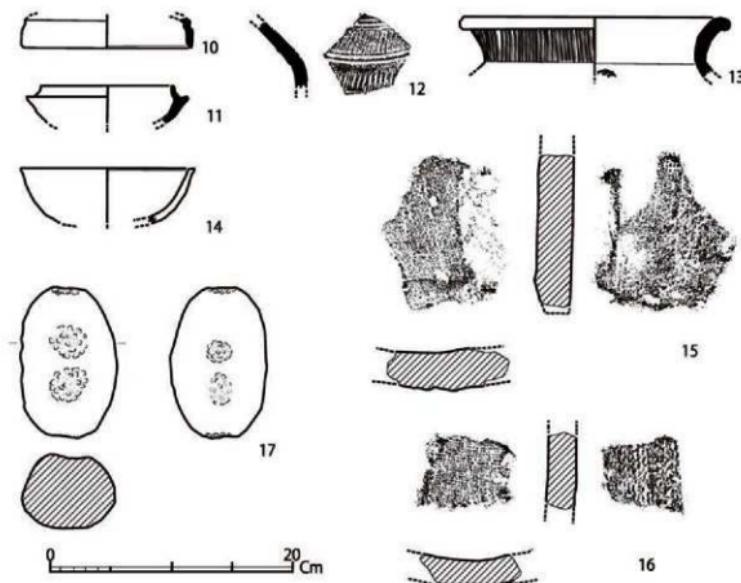
須恵器、土師器、瓦器、サヌカイト剥片が出土している。

須恵器は坏身、甕などがある。坏身は口縁部に立ち上がりのある6世紀後半頃のものである。土師器は細片ばかりで、器種の分かることはない。

瓦器は椀と分かるものの、高台部が残存しておらず、詳細な時期を確定することができない。

サヌカイトは原面打面の剥片で、打面の厚さから硬石のハンマーの直接打撃で取られたものと推測できる。

（栗田）



第8図 出土遺物（縄文土器以外）

## 第4章 中野北遺跡 (NNN89-2)

中野北遺跡は石川左岸の中位段丘にあり、古墳時代から中世にかけての複合遺跡として、古くから知られ、遺跡の北東に桜井遺跡、南に中野遺跡と接する位置にある。

今回の調査地は栗ヶ池の南東部にあたる（第9図）。

今回の調査は、平成2年2月16日に、調査区内の東西2か所に約1.5m×約2mのトレンチを設けて人力で掘削し、いずれも南側断面の堆積層を略測して終了した（第10図）。なお、この調査区の略号はNNN89-2である。

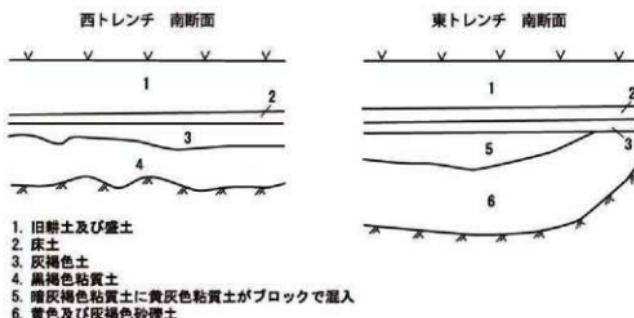
堆積層のうち第5層の暗灰褐色粘質土には塗喰が混入していることから、中世以降に形成された遺構の堆積層と推測できる。



遺物は土師器の細片が1点出土しているが、器種、所属時期ともに不明である。

(中辻)

第9図 中野北遺跡 (NNN89-2) 調査地位置図



第10図 調査区堆積層模式図

## 第5章　まとめ

今回報告した調査はいずれも小規模であったため、それぞれの遺跡で、新たに多くの情報をもたらすような成果を得ることができなかつた。しかしその中で、錦織遺跡（NK89-1）で出土した縄文土器は、富田林市内の数少ない縄文時代の遺跡に、新たな知見をもたらすことになった。

錦織遺跡は1950年頃から縄文土器が採集される遺跡として知られていた。1967（昭和42）年に排水溝埋設工事が行われた際に、府立富田林高校の生徒によって縄文土器が採集され、当時、平安博物館（現・京都文化博物館）で、それらの資料の研究・報告がなされ（渡辺1971），錦織遺跡は縄文時代の遺跡として広く学界に知られるようなる。

採集された場所は、近畿日本鉄道滝谷不動駅の北北東約200mの位置で（第11図：1967年採集地），それらの中に北白川下層式の土器が多く含まれていたことから、富田林市内の縄文時代遺跡として、最も古い前期の遺跡として認識されたのである。



第11図 錦織遺跡縄文土器出土分布図

その後、1981（昭和56）年に、大阪府教育委員会によって国道170号沿いで住宅建設に伴う調査が行われた際にも（第11図：1981年大阪府教育委員会調査地）縄文土器が出土する。図化できたものは8点と少なかったが、その中には北白川上層式や滋賀里III式の深鉢があったことから、前期の遺跡として認識されてきた錦織遺跡が、後期から晩期にかけて人々の営みが続いていたことが明らかになった。

そして今回（第11図：今回の調査地），北白川上層式よりさらに古い、中津式の土器が出土した。厚みの薄い底部（第7図-9）の出土も合わせ考えると、中期末から後期初頭にまで遡る可能性が高くなり、ほんの少しとは言え、北白川下層式との間を埋めることができた。また、今回の出土資料によって、錦織遺跡内の縄文土器の出土場所の平面的な広がりは、遺跡の北から南までおよぶことが明らかになった。

今回の調査で出土した縄文土器は小さな破片でしかなかったが、富田林市内の縄文時代遺跡を考える上で重要な成果となつたと言えよう。

縄文土器の分布はさらに南の錦織南遺跡にも継ぐ。1981（昭和56）年に大阪府教育委員会によって、縄文時代晩期の河道が調査され大量の縄文土器が出土した（山本1981）。その調査で出土した土器はその量の多さだけではなく、単一時期に限られていること、さらにその中には東北地方の大洞系の土器が含まれることから、東北地方との土器型式の共存関係を考える上で重要な資料になった。

残念ながら、未だに錦織、錦織南の両遺跡で、大地に刻んだ縄文人の痕跡は見つかっていないが、今後の調査で縄文人が形成した遺構の発見が待たれる。

（栗田）

今村道雄（1984）「錦織遺跡発掘調査概要」『大阪府文化財調査概要 1984年度』、大阪。

渡辺 誠（1971）「大阪府富田林市錦織出土の縄文土器」『古代文化』23-3、京都

山本 彰（1981）『錦織南遺跡—縄文時代晩期河道の調査—』、大阪府教育委員会、大阪

# 図 版

図版1



甲田遺跡 (KD89-2) 調査地全景 (東から)



甲田遺跡 (KD89-2) 調査地近景 (南東から)

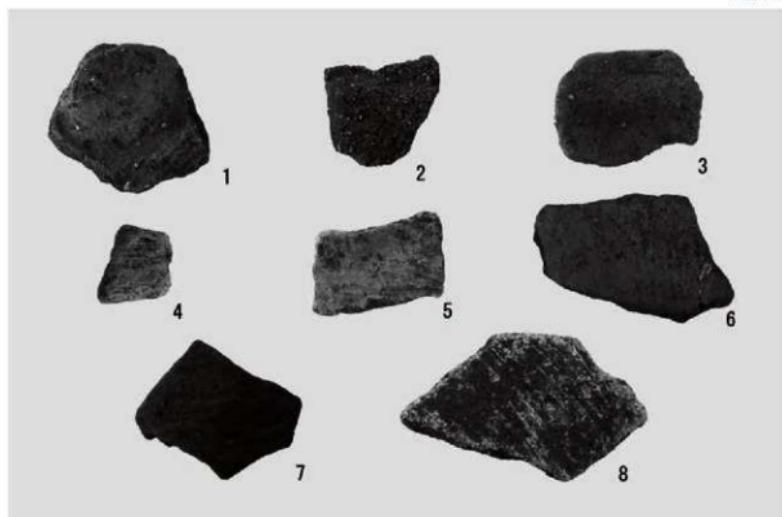


錦織遺跡 (NK89- 1) 調査地全景 (北から)

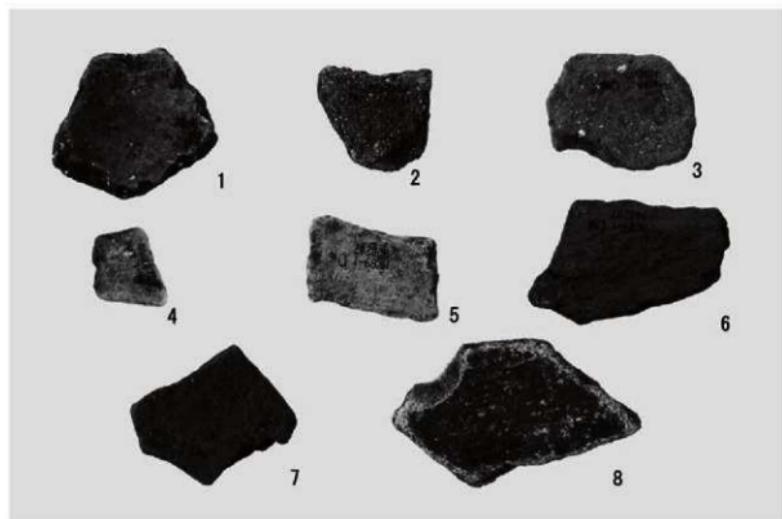


錦織遺跡 (NK89- 1) 調査近景 (北から)

圖版3



錦織遺跡 (NK89- 1) 出土縄文土器 (表面)



錦織遺跡 (NK89- 1) 出土縄文土器 (裏面)

## 報告書抄録

ふりがな	こうだいせき・にしこおりいせき・なかのきたいせきはつくつちょうさがいようほうこく						
書名	甲田遺跡・錦織遺跡・中野北遺跡発掘調査概要報告						
副書名							
卷次							
シリーズ名	富田林市文化財調査報告						
シリーズ番号	19						
編著者名	中辻亘 栗田薰 青木昭和(編)						
編集機関	富田林市教育委員会						
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL0721-25-1000(代)						
発行年月日	2022(令和4)年9月30日						

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こうだいせき	おおあざこうだ			34° 29' 44"	135° 35' 41"			
甲田遺跡	大字甲田 (甲田一丁目)	27214	43			19900126	3 m <sup>2</sup>	記録保存調査
にしこおりいせき	おおあざにしこおり			34° 29' 16"	135° 35' 48"	19900216	5.4 m <sup>2</sup>	記録保存調査
錦織遺跡	大字錦織 (錦織東一丁目)	27214	47					
なかのきたいせき	なかのちょう1ちょうめ			34° 30' 51"	135° 36' 31"	19900216	6 m <sup>2</sup>	記録保存調査
中野北遺跡	中野町一丁目	27214	15					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲田遺跡	集落跡	弥生～中世	溝 ピット		
錦織遺跡	集落跡	縄文～中世		縄文土器・ 須恵器・土師器・ 叩き石・瓦器	縄文後期から晩期の土器 が出土した
中野北遺跡	集落跡	弥生～中世		土師器	

甲田遺跡・錦織遺跡・中野北遺跡発掘調査概要報告

発行年月日 2022年9月30日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 明朗社